

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【広島県】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	東広島市立小谷小学校 第1学年31名 第4学年23名 第5学年28名 第6学年39名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 オリパラ教育としての体育科運動領域学習単元の開発 (体育科(器械・器具を使った運動遊び:跳び箱を使った運動遊び)) (体育科(ベースボール型:キックベース)) (体育科(陸上運動:走り幅跳び)) (体育科(体つくり運動:体力を高める運動))
4 目標 (ねらい)	○体育科運動領域と「する」「見る」「支える」「知る」という4つのアクションを関連付けた学習を通して、運動に対して多様に関わろうとするとともに、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育む。
5 取組内容	本校では、オリパラ教育の内、「特にオリンピック・パラリンピックを通じた学び」と体育科運動領域の学習単元の接続を図るために、校内研究体制に「オリパラ教育開発部」を新たに位置付けた。基礎研究に加え、開発単元を校内の全教職員で参観、協議、検証する校内研修の機会を年間に4回設定した。 ○オリンピック・パラリンピック教育の4つのアクションを意識した開発単元 ①第1学年 跳び箱遊びを通して「する楽しさ」 ②第4学年 キックベースを通して「みんなが楽しむ」「勝負へのこだわり」「公平性」「発想の転換」 ③第5学年 走り幅跳びを通して「仲間を支える」 ④第6学年 体力を高める運動を通して「する・支え合う・知る」
6 主な成果	○体育科に対する肯定的評価は92%から94%へと增加了。その理由として、「たくさん運動できる。」「いろいろな動きができるようになった。」(する),「友だちが運動のポイントやコツを分かりやすく教えてくれる。」(支える),「知らなかった動きが経験できた。」(知る)などの意見を児童から引き出すことができた。 ○単元開発に組み込んだアクションを、学習後に、他の学習単元やクラブマッチやマラソン大会等で発揮する姿が見られた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○指導者が学習単元で育むアクションを焦点化し、毎回の指導に生かすことができるよう、指導案に明記した。具体的には、教材観、単元計画、本時案にそれぞれ、アクションの解釈や価値、育成の手立て等を記した。</p> <p>○本校に来ていたオリンピアン・パラリンピアンの講演や実技指導から学んだことと、開発単元の学習内容の接続を図った。</p>
8主な課題等	<p>○「する」「見る」「支える」「知る」の4つのアクションを通して児童に触れさせたいスポーツの価値について、体育科運動領域の学習内容の特性に照らし、さらに具体化を図る必要がある。</p> <p>○本校で育成を目指す資質・能力と、具体化したスポーツの価値との関連性を明確にし、発達段階や系統性を考慮しながら、年間を通じた指導を行う必要がある。</p> <p>○2020年東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心の高まりに関する意識調査を実施する必要がある。</p>
9来年度以降の実施予定	来年度も引き続き、本取組を継続し、児童のオリンピック・パラリンピックに対する意識を高めていきたい。